

## 【柳田哲矢】

[柳田 哲矢 \(Tetsuya Yanagida\) - マイポータル - researchmap](#)

### ・研究のキーワード

寄生虫, 人獣共通感染症, 魚病, 分類学, 生物多様性

### ・研究テーマ

#### ○魚類の微孢子虫・粘液孢子虫病

微孢子虫と粘液孢子虫は、いずれも顕微鏡サイズの胞子を形成する寄生生物であり、国内外の水産業、特に養殖業に被害を及ぼしている。また、観賞魚や実験動物（メダカ、ゼブラフィッシュ等）でも被害が報告されている。魚類の微孢子虫症・粘液孢子虫症対策を目的として、病原体の同定や検査法の開発、感染経路の特定など多角的に研究をおこなっている。

#### ○養殖マボヤの被囊軟化症

キネトプラスト類の鞭毛虫を原因とする被囊軟化症は、日韓のマボヤ養殖に大きな被害をもたらしている。本症への対策を目的として、原因鞭毛虫の病原性解析や発症機構の解明、宿主（マボヤ）の生体防御機構の解明など多角的に研究をおこなっている。

#### ○野生動物の寄生虫

野生動物には多種多様な生物が寄生しており、生態系の重要な構成成分となっている。生物多様性や生態系の維持には、目に見える生物間だけでなく、目に見えない寄生虫も含めた生物間相互作用の理解が必要である。多様な無脊椎動物・脊椎動物を調査対象とし、検出した寄生虫を形態学と遺伝子解析に基づいて同定・分類することで多様性の理解を進めるとともに、生活環の解明などにも取り組んでいる。

#### ○人獣共通感染性条虫症

人獣共通感染性の条虫症には、エキノコックス症や有鉤囊虫症のように難治性で、世界各地で大きな人的被害と経済的損失を引き起こしているものも含まれる。これらの条虫症は、家畜あるいは野生動物によって伝播・拡散し、各地の生活習慣や衛生状況などに応じて定着・流行する。難治性の人獣共通感染性条虫症対策を目的として、病原体の同定や検査法の確立、主に国外での疫学調査などを実施している。